

Part2

高等学校の部

第1章

高等学校と
高校生の理解

◆第1節 高等学校・高校生の状況把握と進路先の理解

1 高等学校・高校生の状況

① 高等学校の数

- ・2013年度の学校数は4,981校（本校4,893校，分校88校）で、前年度より41校減少している。
- ・中高一貫教育を行う学校数は併設型が319校、連携型が83校で、併設型は前年度より10校増加、連携型は前年度と同数である。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【資料】高等学校の設置者別学校数

区 分	計	国 立	公 立	私 立	(校)	
					計のうち中高一貫教育を行う学校（再掲）	
					併設型	連携型
平成 15 年度	5,450	15	4,117	1,318	50	54
20	5,243	16	3,906	1,321	220	81
21	5,183	16	3,846	1,321	247	82
22	5,116	15	3,780	1,321	273	82
23	5,060	15	3,724	1,321	289	83
24	5,022	15	3,688	1,319	309	83
25	4,981	15	3,646	1,320	319	83

（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

② 高校生の数

- ・2013年度の生徒数は3,319,758人（男子1,672,347人，女子1,647,411人）で、前年度より35,851人減少している。
- ・全日制課程（本科）の生徒数は3,204,380人、定時制課程（本科）の生徒数は106,558人である。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【高等学校の生徒数】

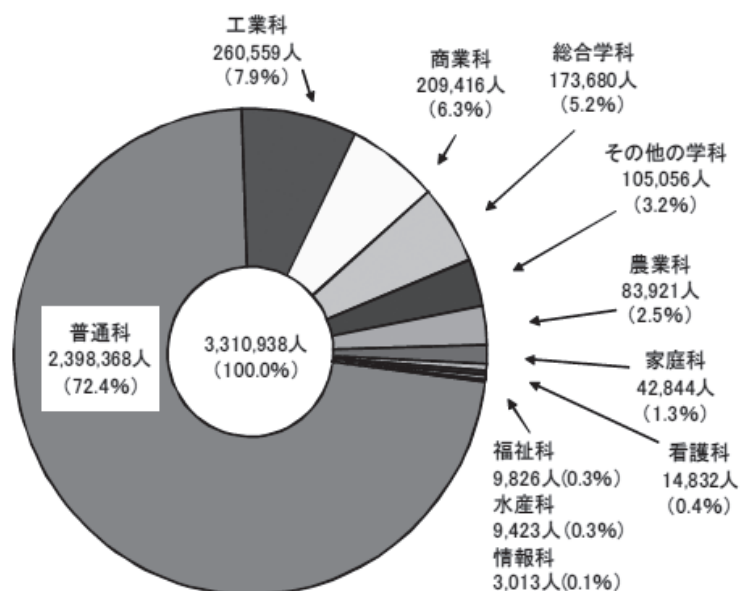
区 分									(人)
	計					うち 本 科			本務教員 1 人 当たりの生徒数
		男	女	全日制	定時制	計	全日制	定時制	
平成15年度	3,809,827	1,927,522	1,882,305	3,698,972	110,855	3,801,646	3,691,177	110,469	14.7
20	3,367,489	1,704,140	1,663,349	3,258,851	108,638	3,358,711	3,250,301	108,410	14.0
21	3,347,311	1,694,971	1,652,340	3,235,937	111,374	3,338,861	3,227,676	111,185	14.0
22	3,368,693	1,703,397	1,665,296	3,252,457	116,236	3,360,101	3,244,052	116,049	14.1
23	3,349,255	1,690,804	1,658,451	3,233,248	116,007	3,340,561	3,224,739	115,822	14.1
24	3,355,609	1,691,921	1,663,688	3,243,422	112,187	3,347,127	3,235,116	112,011	14.1
25	3,319,758	1,672,347	1,647,411	3,213,035	106,723	3,310,938	3,204,380	106,558	14.1

（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

③ 高等学校の学科別生徒数

- ・2013年度における本科の生徒数3,310,938人を学科別にみると、普通科が2,398,368人で最も多く、本科の生徒数の72.4%を占めている。次いで、工業科が260,559人、で7.9%、商業科が209,416人で6.3%、総合学科が173,680人で5.2%、等となっている。
 - ・1999年度の学校基本調査結果では、本科の生徒数4,203,750人のうち、普通科の生徒が3,087,519人で73.5%、工業科が268,388人で8.8%、商業科が364,177人で8.7%、総合学科が58,789人で1.4%であった。
 - ・1970年度は、普通科の生徒が58.5%、職業学科（専門高等学校）の生徒が40.7%、その他の専門学科（理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係等の学科）の生徒が0.8%であったが、職業学科の生徒の比率が年々減少している。
 - ・最近の20年間は、普通科の生徒が73%前後ではほぼ一定するとともに、普通科と職業学科とを総合する学科として1994年に創設された総合学科で学ぶ生徒の比率が高くなっている。
- （参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【高等学校の学科別生徒数（本科）】



（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

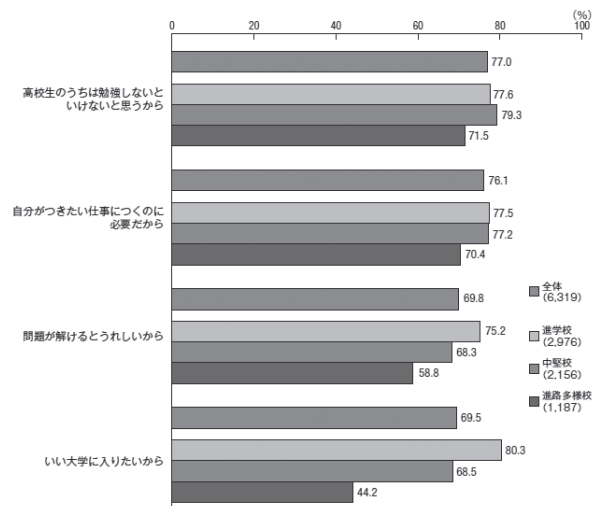
2 高校生の学習、日常生活、意識

① 高校生が勉強する理由

- ・ 高校生が勉強する理由は、全体的にみると「高校生のうちは勉強しないといけないと思うから」との回答が77.0%と最も高い。次いで「自分が就きたい仕事に就くのに必要だから」が76.1%である。
- ・ 高等学校のタイプ別では、「いい大学に入りたいから」が、進学校（偏差値60以上目安）、では80.3%と最も高い勉強理由である。中堅校（偏差値50～59目安）では68.5%、進路多様校（偏差値50未満目安）では44.2%であり、他の理由と比較すると低い。

（参考：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月を基に作成）

【勉強をする理由（全体 偏差値層別）（高等学校1・2年生）】

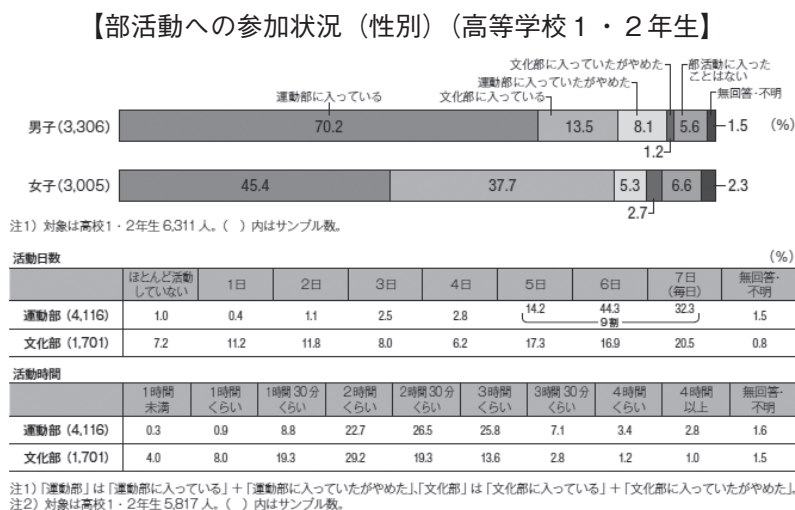


（資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月）

② 部活動への参加状況

- ・部活動への参加状況は、男子よりも女子の方が文化部に参加する比率が高い。活動日数は、運動部は「5日」～「7日（毎日）」が90.8%であるのに対し、文化部は「ほとんど活動していない」～「7日（毎日）」まで回答にばらつきがある。

（参考：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月を基に作成）

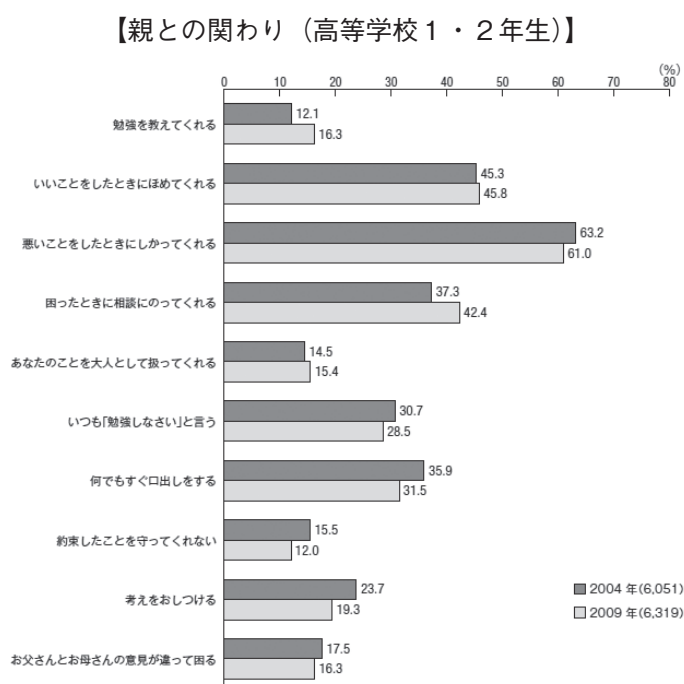


（資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月）

③ 親子関係

- ・親との関係については、近年、「勉強を教えてくれる」や「困ったとき相談に乗ってくれる」が上昇している。他方、「何でもすぐに口出しをする」や「考えをおしつける」については低下している。

（参考：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月を基に作成）



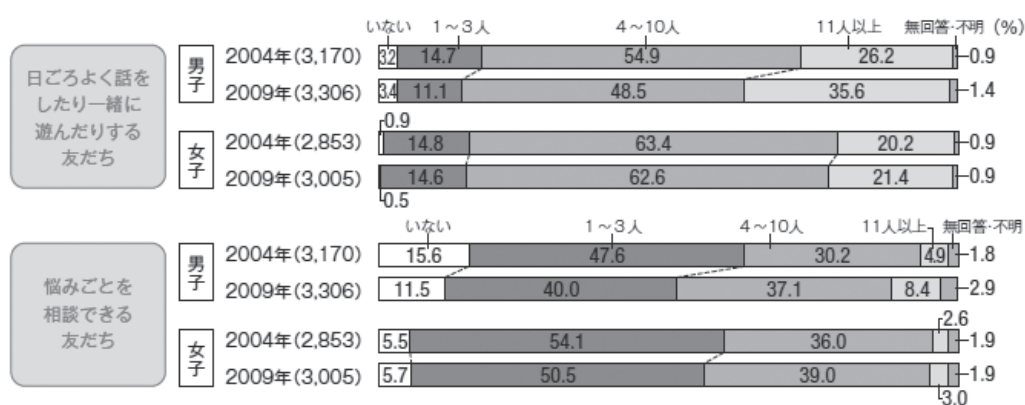
（資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月）

④ 友人関係

- ・男子は、「日ごろよく話をしたり一緒に遊んだりする友だち」が11人以上いる比率や「悩みごとを相談できる友だち」が4人以上いる比率が高まっている。「グループの仲間同士で固まっていたい」や「仲間はずれにされないようには話を合わせる」も上昇している。
- ・女子は、「悩みごとを相談する友だち」が1～10人の比率が男子より高く、そのような友だちがいないという比率が低い。

(参考：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月を基に作成)

【友だちの数（性別）（高等学校1・2年生）】



注1) 「1～3人」は「1人」+「2～3人」, 「4～10人」は「4～6人」+「7～10人」, 「11人以上」は「11～20人」+「21人以上」。
 注2) 対象は高校1・2年生。()内はサンプル数。

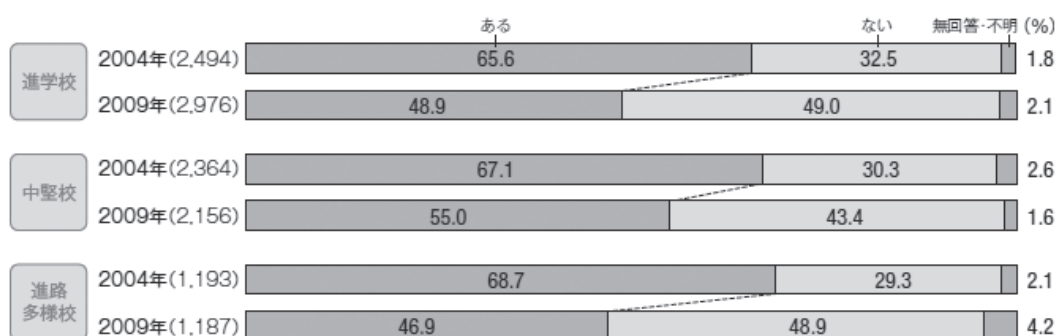
(資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月)

⑤ 将来なりたい職業の有無

- ・進学校で、将来なりたい職業が「ある」と回答した高校生の比率は2004年の65.6%から2009年は48.9%へと大きく落ち込んでいる。

(参考：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月を基に作成)

【将来なりたい職業の有無（偏差値層別（高等学校1・2年生）】



注1) 「進学校」は偏差値60以上目安, 「中堅校」は偏差値50～59目安, 「進路多様校」は偏差値50未満目安。
 注2) 対象は高校1・2年生。()内はサンプル数。

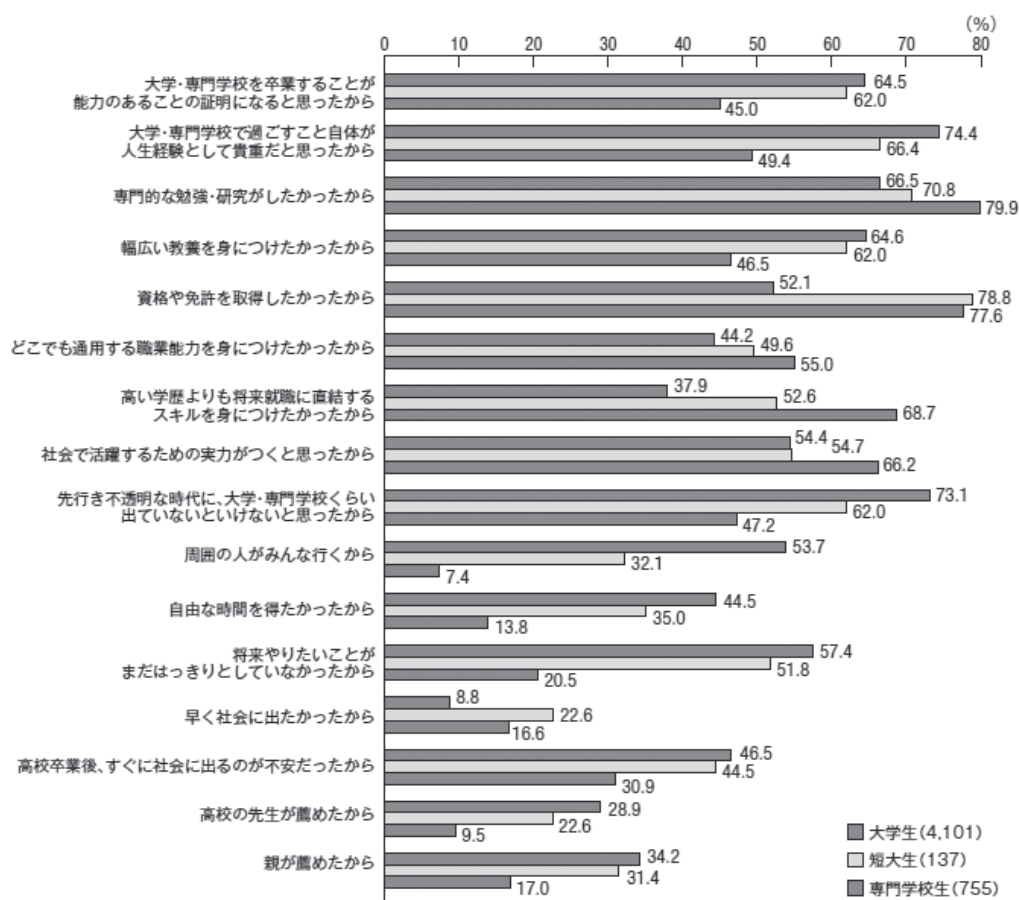
(資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月)

⑥ 高等教育機関への進学理由

- ・大学生の進学理由としては「大学で過ごすこと自体が人生経験として貴重だと思ったから」が74.4%と最も高い。次いで「先行き不透明な時代に、大学くらい出ていないといけないと思ったから」が73.1%である。
- ・短期大学生と専門学校生のそれぞれの学校への進学理由は、「資格や免許を取得したかったから」が短期大学生78.8%、専門学校生77.6%と高い。また、専門学校生の79.9%は、「専門的な勉強・研究がしたかったから」と回答している。

(参考：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月を基に作成)

【大学・短期大学・専門学校への進学理由】



注1) 「とてもあてはまる」＋「まああてはまる」の%。選択肢は「とてもあてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の5段階。

注2) 対象は大学生 4,101 人、短大生 137 人、専門学校生 755 人。() 内はサンプル数。

(資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月)

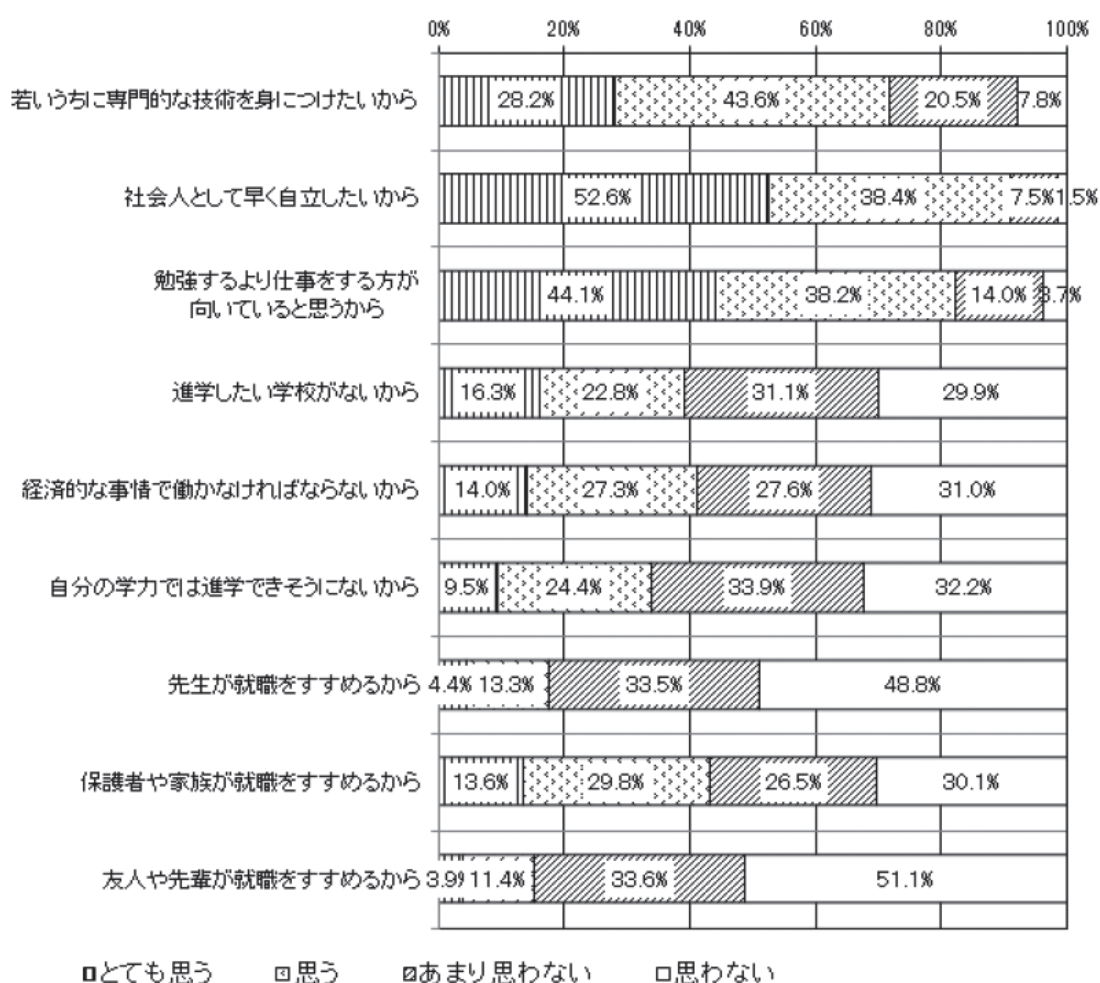
⑦ 高等学校卒業後すぐに働くことを希望する理由

- ・高等学校を卒業した後で（進学しないで）働くことを希望する理由は、「社会人として早く自立したいから」と「とても思う」学生の割合が52.6%と最も高い。次いで、「勉強するより仕事をする方が向いていると思うから」が44.1%、「若いうちに専門的な技術を身につけたいから」が28.2%等である。
- ・「思う」と合せても上位3つの順位は同じで、「保護者や家族が就職をすすめるから」が43.4%、「経済的な事情で働かなければならないから」が41.3%である。

（参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成）

【高等学校を卒業した後すぐに働くことを希望する理由】



（資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

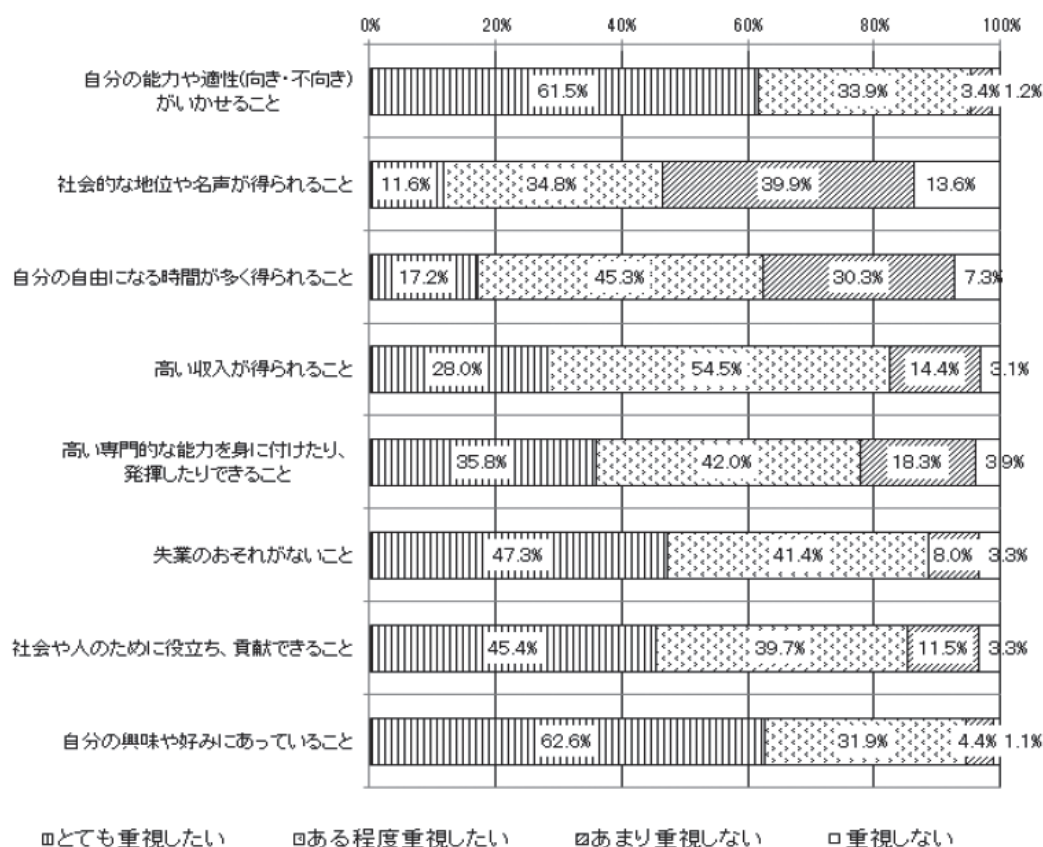
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

⑧ 自分の職業や仕事を選ぶ際に重視すること

- ・「とても重視したい」について、「自分の興味や好みにあっていること」が62.6%、「自分の能力や適性(向き・不向き)がいかせること」が61.5%、「失業のおそれがないこと」が47.3%、「社会や人のために役立ち、貢献できること」が45.4%等である。
- ・「ある程度重視したい」も含めると、「自分の能力や適性(向き・不向き)がいかせること」が最も高く95.4%である。次いで、「自分の興味や好みにあっていること」が94.5%、「失業のおそれがないこと」が88.7%、「社会や人のために役立ち、貢献できること」が85.1%、「高い収入が得られること」が82.5%等である。
- ・逆に、「社会的な地位や名声が得られること」は、「あまり重視しない」「重視しない」生徒の合計が53.5%である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

【自分の職業や仕事を選ぶ際に重視すること】



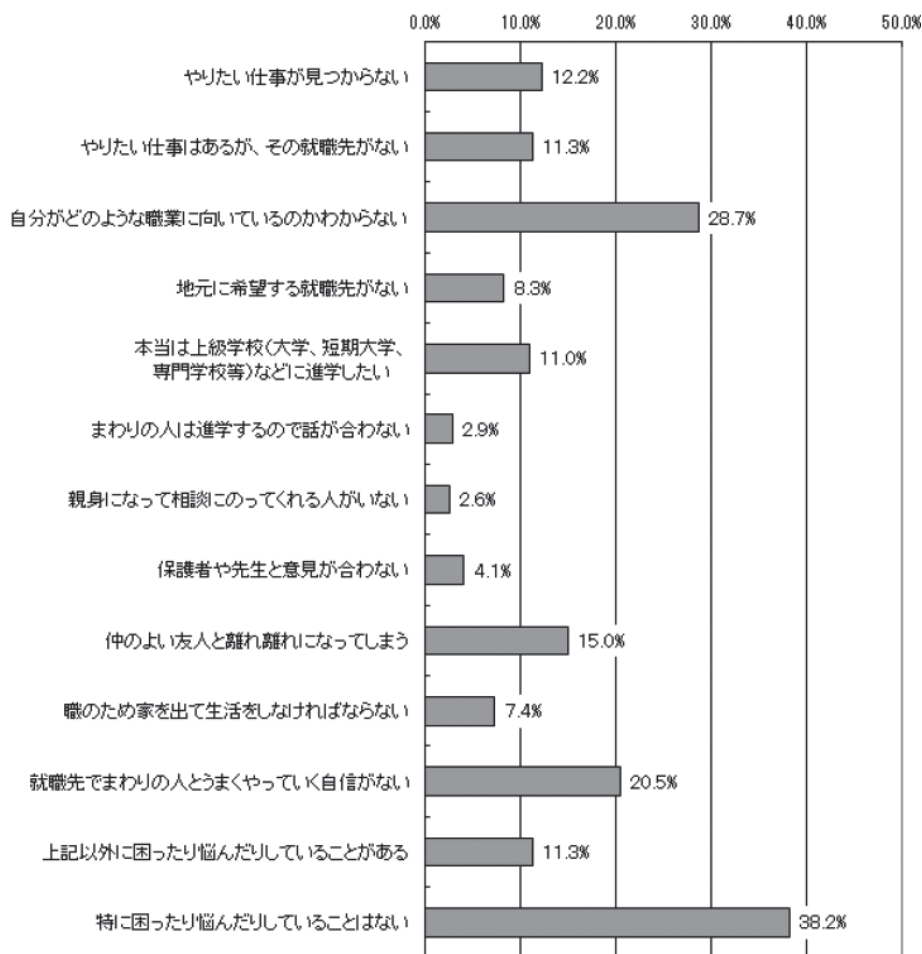
(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

⑨ 就職等を希望するにあたって困ったり悩んだりしていること

・「特に困ったり悩んだりしていることはない」が38.2%と最も高い。次いで「自分がどのような職業に向いているのかわからない」が28.7%、「就職先でまわりの人とうまくやっていく自信がない」が20.5%等である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

【就職や家事への従事等を希望するにあたって困ったり悩んだりしていること】



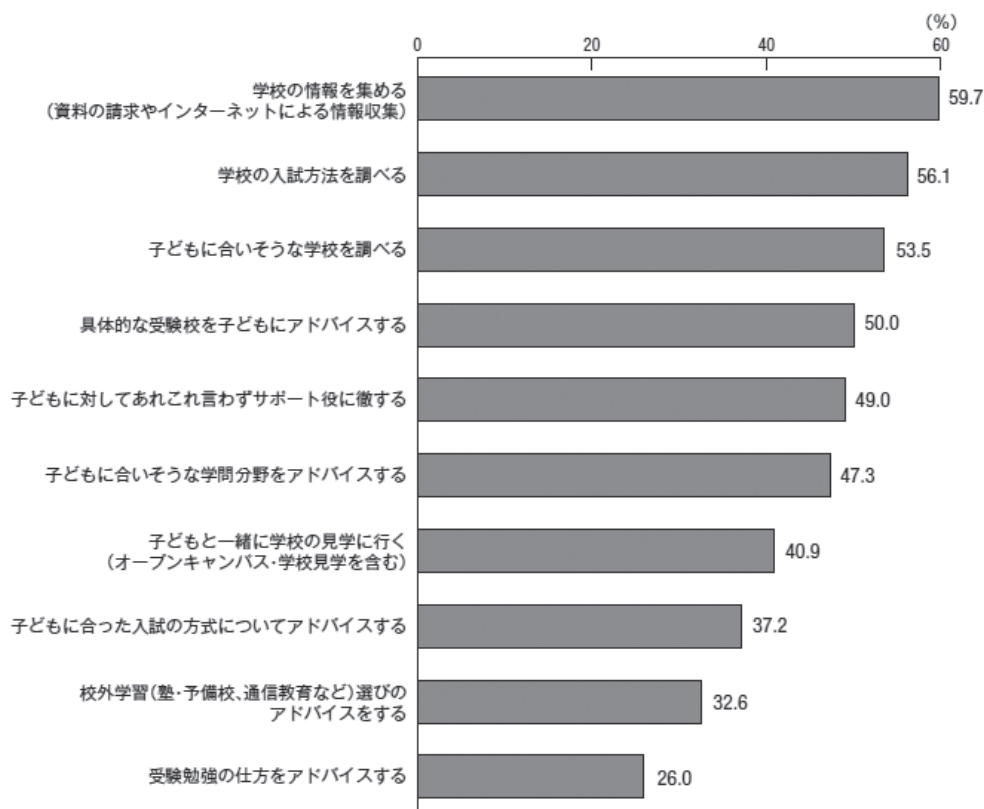
(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

⑩ 子どもの進路選択に対する保護者の関与

- ・子どもの進路選択に関して親がしていることは、「学校の情報を集める（資料の請求やインターネットによる情報収集）」が59.7%、「学校の入試方法を調べる」が56.1%、「子どもに合いそうな学校を調べる」が53.5%、「具体的な受験校を子どもにアドバイスする」が50.0%等である。
- ・「受験勉強の仕方をアドバイスする」は26.0%と最も比率が低い。

（参考：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月を基に作成）

【こどもの進路選択に関して親がしていること】



注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。選択肢は「とてもあてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の5段階。

注2) 対象は子どもに大学進学を希望する高校1～3年生の保護者 3,297 人。

（資料出所：ベネッセ教育総合研究所「高等学校データブック 2013」2013年3月）

3 高校生の進路

① 進路先（現役生）

- ・高等学校卒業者の「大学・短期大学進学率」は、2010年の54.3%をピークにここ3年は微減し、2013年3月卒では53.2%である。
- ・「就職率」は3年連続で上昇し、2013年は16.9%、「専門学校進学率」はここ4年間連続で上昇し、2013年は17.0%である。
- ・「一時的な仕事に就いた者」と「進学も就職もしていない者」の合計は、2013年は67,563人であり、卒業者全体のうち6.2%、就職者のうち36.6%を占める。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【高等学校職業者の状況】

区 分	卒業者	大学・短大進学者(率)		専門学校進学者(率)	就職者(率)	一時的な仕事に就いた者(率)	進学も就職もしていない者(率)	不詳・死亡
		大学・短大進学者(率)	うち大学(学部)進学者(率)					
平成16年3月	1,235,482	560,055 (45.3)	459,456 (37.2)	237,279 (19.2)	208,907 (16.9)	27,003 (2.2)	92,666 (7.5)	216
17年3月	1,203,251	568,710 (47.3)	473,263 (39.3)	228,867 (19.0)	208,747 (17.3)	22,855 (1.9)	78,922 (6.6)	267
18年3月	1,172,087	578,525 (49.4)	490,242 (41.8)	213,122 (18.2)	210,442 (18.0)	19,232 (1.6)	66,434 (5.7)	140
19年3月	1,148,108	587,999 (51.2)	505,951 (44.1)	193,156 (16.8)	212,635 (18.5)	16,358 (1.4)	59,962 (5.2)	410
20年3月	1,089,188	575,659 (52.9)	500,631 (46.0)	167,092 (15.3)	206,628 (19.0)	12,862 (1.2)	53,757 (4.9)	230
21年3月	1,065,412	574,333 (53.9)	503,840 (47.3)	156,363 (14.7)	193,615 (18.2)	13,592 (1.3)	54,678 (5.1)	158
22年3月	1,071,422	582,272 (54.3)	513,013 (47.9)	170,352 (15.9)	168,727 (15.7)	15,560 (1.5)	59,703 (5.6)	299
23年3月	1,064,074	573,679 (53.9)	507,509 (47.7)	172,200 (16.2)	173,566 (16.3)	14,994 (1.4)	56,965 (5.4)	369
24年3月	1,056,387	565,779 (53.6)	503,545 (47.7)	177,486 (16.8)	176,931 (16.7)	13,892 (1.3)	51,922 (4.9)	283
25年3月	1,091,617	581,138 (53.2)	517,398 (47.4)	185,546 (17.0)	184,702 (16.9)	13,624 (1.2)	53,939 (4.9)	302

（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

② 高等学校学科別進路先

- ・普通科卒業者は、大学等進学率と専修学校専門課程の占める割合が高い。
- ・専門高等学校卒業者のうち、工業科卒業者は、就職者の比率が高く、左記以外の者の比率が低い。
商業科では卒業者の約4人に1人、総合学科では卒業者の約3人に1人が大学等に進学している。
(参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成)

【学科別状況別卒業者数】

(人(%))

区分	計	大学等進学	専修学校専門課程	公共職業能力開発施設	就職	一時的な仕事	左記以外
普通科	794,222	494,163 (62.2)	122,361 (15.4)	3,486 (0.4)	64,041 (8.1)	9,284 (1.2)	42,441 (5.3)
工業科	82,404	12,302 (14.9)	12,270 (14.9)	1,684 (2.0)	52,119 (63.2)	906 (1.1)	2,088 (2.5)
商業科	70,149	17,997 (25.7)	18,554 (26.4)	339 (0.5)	28,367 (40.4)	1,284 (1.8)	2,372 (3.4)
総合学科	55,450	19,561 (35.3)	15,878 (28.6)	632 (1.1)	14,098 (25.4)	1,151 (2.1)	2,850 (5.1)

(資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）2013年8月」を基礎に事務局が編集)

③ 都道府県別の進路先

- ・2013年3月卒業者の全国平均の大学等進学率は53.2%（大学（学部）進学率は47.3%）、専修学校（専門課程）進学率は17.0%、就職率は17.0%である。
- ・大都市圏（関東の一都三県、近畿の二府等）では、全国平均よりも大学等進学率が高く、就職率が低くなっているのに対し、東北・山陰・九州（福岡県を除く）では、全国平均よりも専修学校進学率と就職率が高く、大学等進学率が低いという傾向がある。
- ・就職者総数のうち、県外（出身高等学校が所在する県以外の県）へ就職した者は33,311人で、就職者総数の18.0%を占めている（ちなみに、2013年3月卒で大学等に進学した者のうち、他県（出身高等学校が所在する県以外の県）の大学に入学した者の比率は57.7%で、性別では男子が59.6%、女子が55.2%となっている）。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【高等学校卒業者の都道府県別進学率と就職率】

区 分	大学等 進学率 (%)	大 学 (学 部) 進学率 (%)	専修学校 (専門課程) 進学率 (%)	就職率 (%)	区 分	大学等 進学率 (%)	大 学 (学 部) 進学率 (%)	専修学校 (専門課程) 進学率 (%)	就職率 (%)
北海道	39.9	34.2	22.7	22.0	京 都	64.8	58.5	14.4	8.4
青 森	41.4	34.0	15.4	31.9	大 阪	57.7	50.9	15.0	11.2
岩 手	40.4	33.8	21.3	29.9	兵 庫	59.6	54.1	14.2	13.2
宮 城	48.0	43.9	17.8	23.3	奈 良	57.8	51.0	14.0	10.9
秋 田	43.0	35.6	18.4	29.5	和歌山	47.6	41.1	17.5	20.6
山 形	44.4	37.9	19.2	28.2	鳥 取	42.3	32.8	17.6	23.8
福 島	43.3	37.2	20.3	28.5	島 根	46.0	37.2	23.2	22.0
茨 城	49.3	45.7	18.4	20.0	岡 山	51.0	44.5	16.6	21.2
栃 木	52.3	47.2	17.6	19.8	広 島	60.4	55.0	13.7	13.8
群 馬	51.2	45.6	20.2	17.9	山 口	41.4	35.2	17.7	27.8
埼 玉	56.5	51.3	17.7	13.2	徳 島	50.5	45.1	16.8	21.7
千 葉	53.8	49.3	18.5	12.5	香 川	49.3	42.2	18.1	18.8
東 京	65.2	62.0	13.0	5.9	愛 媛	50.4	43.4	18.5	21.6
神奈川	60.2	55.5	16.1	7.7	高 知	44.4	36.5	21.9	17.8
新 潟	45.0	39.4	28.4	17.3	福 岡	52.0	44.6	15.8	17.2
富 山	52.4	43.5	18.0	20.6	佐 賀	41.8	35.2	17.8	31.0
石 川	53.9	46.5	14.7	20.9	長 崎	41.9	36.4	17.9	29.6
福 井	52.8	44.1	15.3	23.5	熊 本	43.6	37.5	19.1	25.3
山 梨	57.4	51.3	16.9	15.1	大 分	45.5	35.4	21.0	26.2
長 野	47.8	38.0	22.9	16.4	宮 崎	42.4	34.3	17.5	29.7
岐 阜	55.2	47.4	14.3	22.6	鹿児島	41.4	29.3	20.8	26.5
静 岡	53.1	47.9	16.5	21.3	沖 縄	38.2	34.4	26.4	15.2
愛 知	58.3	52.8	12.9	17.7	全 国	53.2	47.3	17.0	17.0
三 重	50.9	44.6	14.6	25.2	男	50.9	49.7	13.6	20.3
滋 賀	56.2	49.3	16.4	16.6	女	55.5	44.9	20.5	13.6

（注）大学等進学率は、大学・短期大学の通信教育部への進学者を含む。

（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

④ 大学入学時の選抜状況

- ・2012年4月における大学（学部）入学者594,358人のうち、一般入試（学力選抜）で入学した者は333,889人（全体の56.2%）である。
- ・設置者別にみると、2012年4月大学入学者のうち、私立大学では50.9%、公立大学では26.7%、国立大学では15.9%が、入学に際して、「学力選抜」を受けていない。

(参考：文部科学省「平成24年度国公立大学入学者選抜実施状況」2012年10月を基に作成)

【選抜毎の実施状況（一般入試）】

区 分	募集人員 A	入学志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数	合格者数	入学者数 C	過△欠員 C-A
国 立 大 学	(80,627) 80,670	(370,551) 367,665	(4.6) 4.6	(289,154) 269,331	(93,543) 91,670	(84,630) 84,097	(4,003) 3,427
公 立 大 学	(20,216) 20,456	(138,102) 133,534	(6.8) 6.5	(104,593) 97,186	(29,297) 29,478	(21,644) 21,815	(1,428) 1,359
小 計	(100,843) 101,126	(508,653) 501,199	(5.0) 5.0	(393,747) 366,517	(122,840) 121,148	(106,274) 105,912	(5,431) 4,786
私 立 大 学	(246,657) 249,610	(2,775,854) 2,787,414	(11.3) 11.2	(2,665,744) 2,667,381	(793,323) 838,090	(227,448) 227,977	(△19,209) △21,633
合 計	(347,500) 350,736	(3,284,507) 3,288,613	(9.5) 9.4	(3,059,491) 3,033,898	(916,163) 959,238	(333,722) 333,889	(△13,778) △16,847

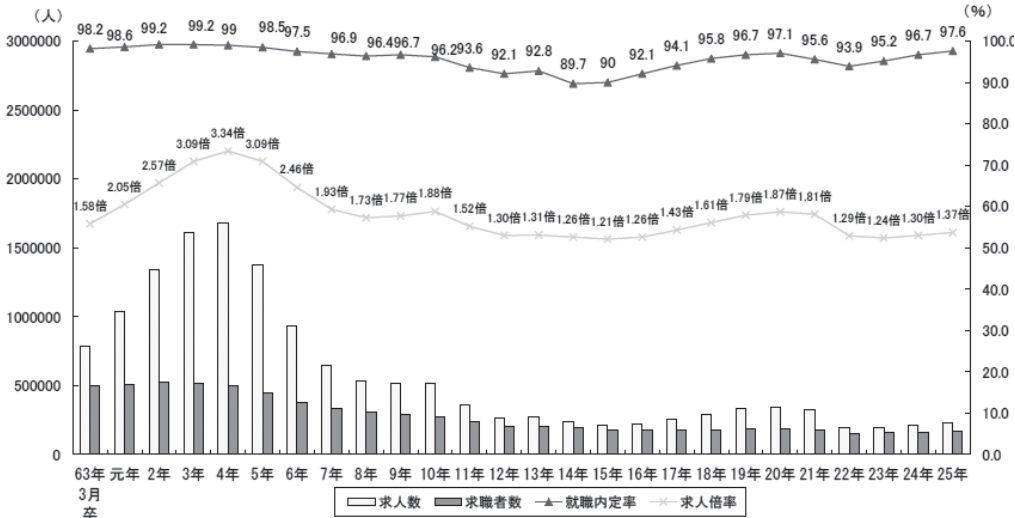
(資料出所：文部科学省「平成24年度国公立大学入学者選抜実施状況」2012年10月)

⑤ 高等学校卒就職者に対する求人数・求職者数、求人倍率・就職内定率の推移

- ・1992年3月卒では167.6万人あった高等学校卒業者に対する求人数（求職者数50.2万人、求人倍率3.34倍）が、2002年3月卒では24.1万人（求職者数19.1万人、求人倍率1.26倍）、2013年3月卒では22.7万人（求職者数16.6万人、求人倍率1.37倍）になる等、高等学校新卒者に対する求人数が減少している。
- ・就職内定率は、1993年3月卒で98.5%であったが、2003年3月卒では90.0%、2013年3月卒では97.6%となっている。

(参考：厚生労働省「平成24年度『高等学校・中学新卒者の求人・求職・内定状況』取りまとめ」2013年5月を基に作成)

【高等学校新卒者の求人倍率・就職内定率の推移（3月末現在）】



(資料出所：厚生労働省「平成24年度『高等学校・中学新卒者の求人・求職・内定状況』取りまとめ」2013年5月)

⑥ 就職者の産業別就職者数

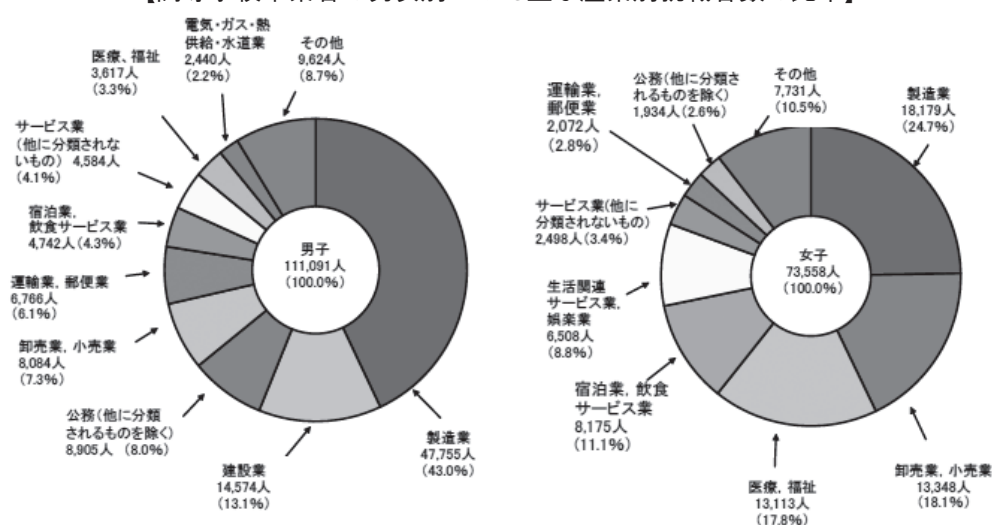
- ・就職者総数を産業別にみると、「製造業」が65,934人（就職者の35.7%）で最も多く、次いで「卸

売業、小売業」が21,432人（同11.6%）、「医療、福祉」が16,730人（同9.1%）、「宿泊業、飲食サービス業」が12,917人（同7.0%）である。

- ・男子の就職者111,091人のうち、製造業が47,755人（43.0%）、建設業が14,574人（13.1%）、公務（他に分類されるものを除く）が8,905人（8.0%）、卸売業、小売業が8,084人（7.3%）、運輸業、郵便業が6,766人（6.1%）等の順である。
- ・女子の就職者73,558人のうち、製造業が18,179人（24.7%）、卸売業、小売業が13,348人（18.1%）、医療、福祉が13,113人（17.8%）、宿泊業、飲食サービス業が8,175人（11.1%）、生活関連サービス業、娯楽業が6,508人（8.8%）等の順である。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【高等学校卒業者の男女別にみた主な産業別就職者数の比率】



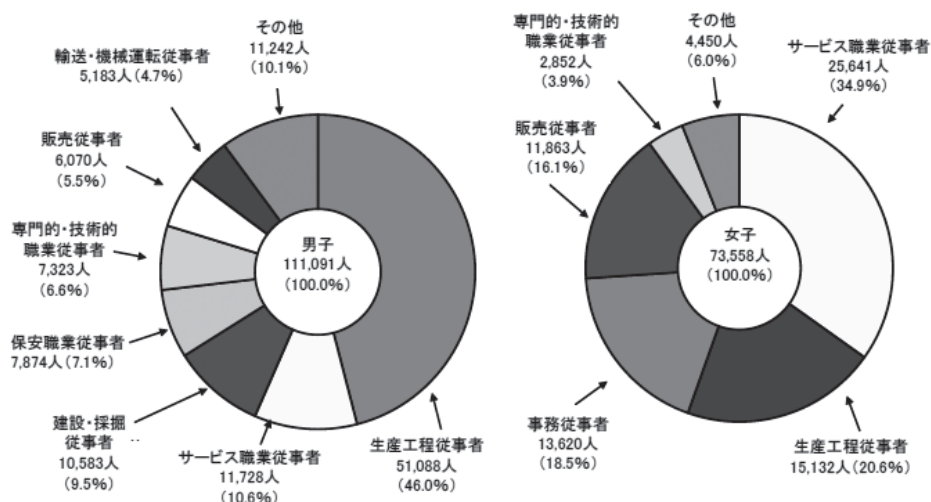
（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

⑦ 就職者の職業別就職者数

- ・就職者総数を職業別にみると、「生産工程従事者」が66,220人（就職者総数の35.9%）で最も多く、次いで「サービス職業従事者」が37,369人（同20.2%）、「販売従事者」が17,933人（同9.7%）、「事務従事者」が16,727人（同9.1%）等である。
- ・男子の就職者は、生産工程従事者が51,088人（46.0%）、サービス職業従事者が11,728人（10.6%）、建設・採掘従事者が10,583人（9.5%）、保安職業従事者が7,874人（7.1%）、専門的・技術的職業従事者が7,323人（6.6%）等の順である。
- ・女子の就職者は、サービス職業従事者が25,641人（34.9%）、生産工程従事者が15,132人（20.6%）、事務従事者が13,620人（18.5%）、販売従事者が11,863人（16.1%）等の順である。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【高等学校卒業者の男女別にみた主な職業別就職者数の比率】



（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

⑧ 新規高卒就業者の産業別離職状況

- ・新規高卒就業者（2009年3月卒）の3年以内の離職率は、35.7%である。
- ・産業分類別（大分類）卒業3年後の離職率を2013年4月新規高卒就職者の多い順でみると、製造業が24.4%、卸売業が40.1%、小売業が49.1%、医療、福祉が47.2%、宿泊業、飲食サービス業が67.7%等となっている。

◆第2節 高等教育機関等での教育と社会への移行における課題の理解

1 高等教育機関等での教育

① 関係学科別学部学生の比率（4年制大学）

- ・2013年度における4年制大学学生の関係学科別学生数の比率は、高い順に、社会科学33.1%、工学15.2%、人文科学14.7%となっているが、近年、これらの学科の比率が低下し、教育、薬学の学生構成比が上昇している。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【関係学科別学生の構成比の推移（4年制大学）】

区 分	関 係 学 科 別 学 生 の 構 成 比										
	計	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	家政	教育	その他
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成15	100.0	16.3	39.0	3.5	17.8	2.8	2.5	1.6	2.1	5.5	8.8
20	100.0	15.6	35.8	3.3	16.3	3.0	2.5	2.2	2.6	6.1	12.7
21	100.0	15.4	35.3	3.2	16.0	3.0	2.5	2.1	2.6	6.3	13.4
22	100.0	15.2	34.9	3.2	15.7	3.0	2.5	2.4	2.7	6.5	14.0
23	100.0	15.0	34.2	3.2	15.4	2.9	2.6	2.8	2.7	6.7	14.5
24	100.0	14.8	33.7	3.2	15.2	3.0	2.6	2.9	2.7	7.0	15.0
25	100.0	14.7	33.1	3.1	15.2	3.0	2.7	2.9	2.8	7.2	15.3

（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

② 関係学科別学生数の比率（短期大学本科生）

- ・2013年度における短期大学本科生の関係学科別学生数の比率は、高い順に、教育が36.2%、家政が18.9%、社会が9.8%、保健が9.7%となっている。
- ・近年、人文、社会、工業、家政の比率が低下し、教育の比率が上昇している。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【関係学科別学生数の比率の推移（短期大学本科生）】

区 分	計	人文	社会	教養	工業	農業	保健	家政	教育	その他
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成15	100.0	15.1	13.4	2.0	4.3	1.1	9.7	22.5	25.6	6.2
20	100.0	12.4	12.0	1.4	3.5	0.8	7.6	20.8	29.8	11.7
21	100.0	12.4	11.9	1.4	3.1	0.9	8.0	20.5	29.6	12.2
22	100.0	11.8	11.9	1.4	3.0	0.9	8.3	20.1	30.4	12.1
23	100.0	10.9	11.0	1.4	2.9	0.9	9.0	19.5	33.1	11.3
24	100.0	10.1	10.0	1.5	2.7	1.0	9.5	18.9	35.6	10.6
25	100.0	9.2	9.8	1.9	2.7	1.0	9.7	18.9	36.2	10.6

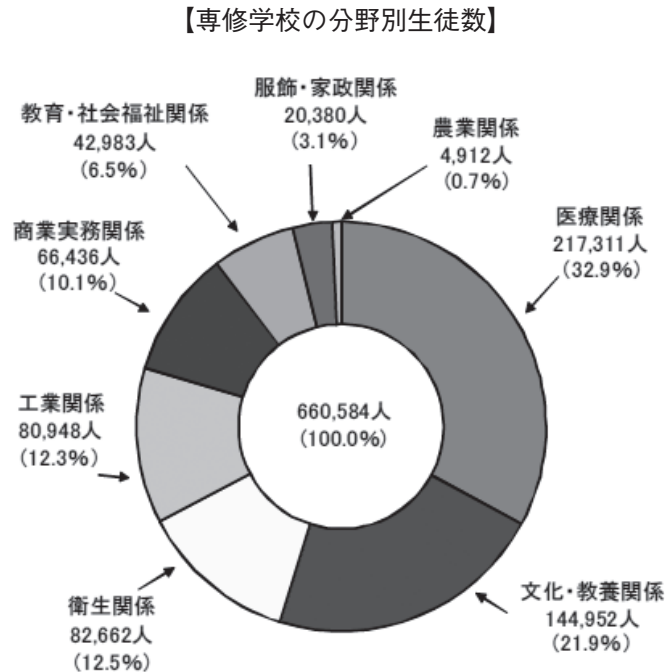
（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

③ 専修学校の専攻分野別生徒数

- ・専修学校の生徒数を分野別にみると、「医療関係」が217,311人（全生徒数の32.9%）と最も多

く、次いで「文化・教養関係」が144,952人（同21.9%）、「衛生関係」が82,662人（同12.5%）、「工業関係」が80,948人（同12.3%）等である。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）



（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

④ 高等技術専門校での教育

- ・ 高等学校卒業者を対象として、高度職業訓練を行う2年制の専門課程（2800時間）を置く公共職業能力開発施設は、職業能力開発大学校（10校）と職業能力開発短期大学校等（26校）があり、制度上、機械システム系、電子情報制御システム系、居住システム系等、29の専攻科が存在している。
- ・ 2013年3月高等学校卒業者のうち、公共職業能力開発施設等に入学したのは6,850人である。

（参考：厚生労働省ホームページ「学卒者訓練の概要」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/nouryoku/gakusotu/index.html>

及び文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

2 卒業生の進路

① 大学学部卒業者の状況別推移

- ・ 2013年3月大学学部卒業者を状況別にみると、卒業者558,853人のうち、「進学者」が72,821人（全卒業者の13.0%）、「就職者」が375,959人（同67.3%）、「一時的な仕事に就いた者」が16,850人（同3.0%）、「左記以外の者」が75,928人（同13.6%）等である。
- ・ 卒業者のうち、「正規の職員でない者」「一時的な仕事に就いた者」「就職も進学もしていない者」を合算すると、115,564人となり、安定的な雇用に就いていない者の卒業者に占める割合は20.7%（前年度は22.9%）である。

（参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成）

【大学（学部）卒業後の状況】

区 分	卒業生	進学者(率)	就職者(率)		一時的な仕事に就いた者(率) ②	進学も就職もしていない者(率) ③	不詳・死亡(率)	安定的な雇用に就いていない者(率) ①+②+③	
			うち正規の職員等でない者	(率) ①					
平成16年3月	548,897	77,022 (14.0)	306,414 (55.8)	...	24,754 (4.5)	110,035 (20.0)	22,699 (4.1)	...	...
17年3月	551,016	78,169 (14.2)	329,125 (59.7)	...	19,507 (3.5)	97,994 (17.8)	18,398 (3.3)	...	...
18年3月	558,184	79,337 (14.2)	355,820 (63.7)	...	16,659 (3.0)	82,009 (14.7)	15,108 (2.7)	...	...
19年3月	559,090	77,165 (13.8)	377,776 (67.6)	...	13,287 (2.4)	69,296 (12.4)	12,503 (2.2)	...	...
20年3月	555,690	76,343 (13.7)	388,480 (69.9)	...	11,485 (2.1)	59,791 (10.8)	10,803 (1.9)	...	...
21年3月	559,539	78,265 (14.0)	382,485 (68.4)	...	12,991 (2.3)	67,894 (12.1)	8,904 (1.6)	...	...
22年3月	541,428	86,039 (15.9)	329,190 (60.8)	...	19,332 (3.6)	87,174 (16.1)	10,807 (2.0)	...	...
23年3月	552,358	82,657 (15.0)	340,217 (61.6)	...	19,107 (3.5)	88,007 (15.9)	13,521 (2.4)	...	...
24年3月	558,692	76,856 (13.8)	357,088 (63.9)	21,993 (3.9)	19,569 (3.5)	86,566 (15.5)	9,797 (1.8)	128,128 (22.9)	...
25年3月	558,853	72,821 (13.0)	375,959 (67.3)	22,786 (4.1)	16,850 (3.0)	75,928 (13.6)	8,523 (1.5)	115,564 (20.7)	...

- (注) 1 卒業生数は、表章された内訳のほか、臨床研修医(予定者含む)(平成25年度8,870人)を含めた合計。
2 「就職者」とは、給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を得る仕事(自家・自営業を含む)に就いた者をいう。
なお、就職者には、「大学院等への進学者のうち就職している者」(98人)を含む。
3 就職者のうち、「正規の職員等でない者」とは、雇用の期間が1年以上で期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が30～40時間の者をいう。(P9参照)

4 進学率 = $\frac{\text{大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科、専修学校、外国の学校へ入学した者}}{\text{各年3月の大学学部卒業生}}$
5 就職率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{各年3月の大学学部卒業生}}$

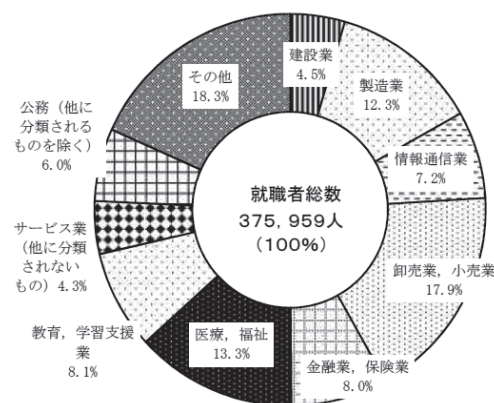
(資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

② 大学学部卒業生の産業別就職者数

- ・2013年3月就職者総数を産業別にみると、「卸売業、小売業」が67,152人で17.9%と最も高く、次いで「医療、福祉」が50,063人で13.3%、「製造業」が46,212人で12.3%、「教育、学習支援業」が30,622人で8.1%等の順である。
- ・男女別では、男子は「卸売業、小売業」が18.6%、「製造業」が15.6%、「情報通信業」が8.6%等の順であり、女子は「医療、福祉」が20.3%、「卸売業、小売業」が17.1%、「教育、学習支援業」が10.6%等の順である。

(参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成)

【大学（学部）卒業生の産業別就職者数の比率】



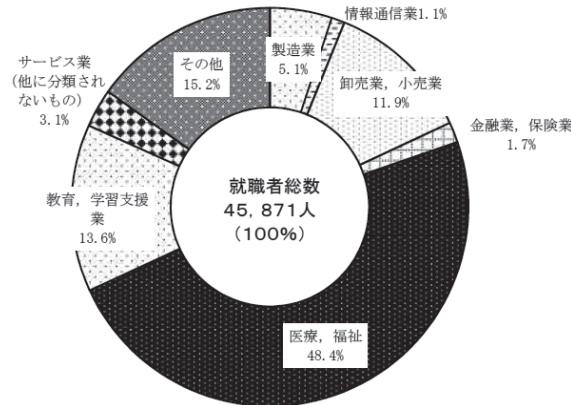
(資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月)

③ 短期大学生の産業別就職者数

- ・2013年3月短期大学（本科）卒業の就職者総数を産業別にみると、「医療、福祉」が22,206人で48.4%と最も高く、次いで「教育、学習支援業」が6,230人で13.6%、「卸売業、小売業」が5,475人で11.9%等の順である。

(参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成)

【短期大学（本科）卒業者の産業別就職者の比率】



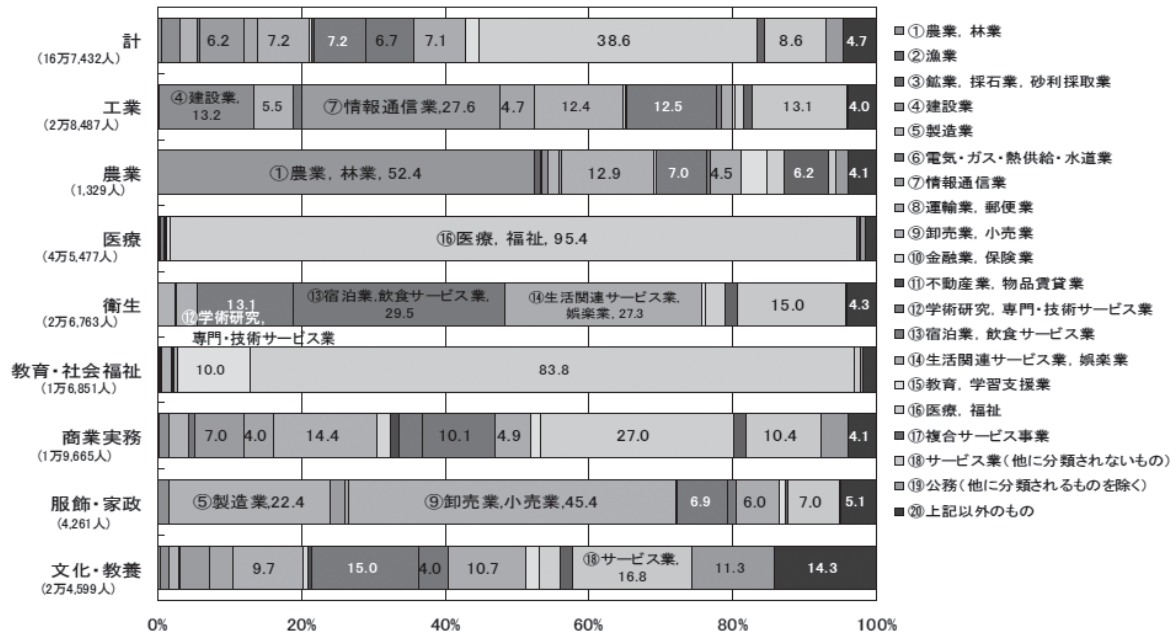
（資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月）

④ 専門学校の卒業生

- ・2008年3月における専門学校卒業生の産業別就職者割合は、「医療、福祉」が38.6%と最も高く、次いで「サービス業（他に分類されないもの）」が8.6%、「卸売業、小売業」と「学術研究、専門・技術サービス業」が7.2%等の順である。

（参考：中教審「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011年1月を基に作成）

【専門学校の関係学科別産業別就職者割合（平成20年度）】



（資料出所：中教審「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011年1月）

3 教育と社会の接続における課題

① 大学生の分野別卒業生の状況

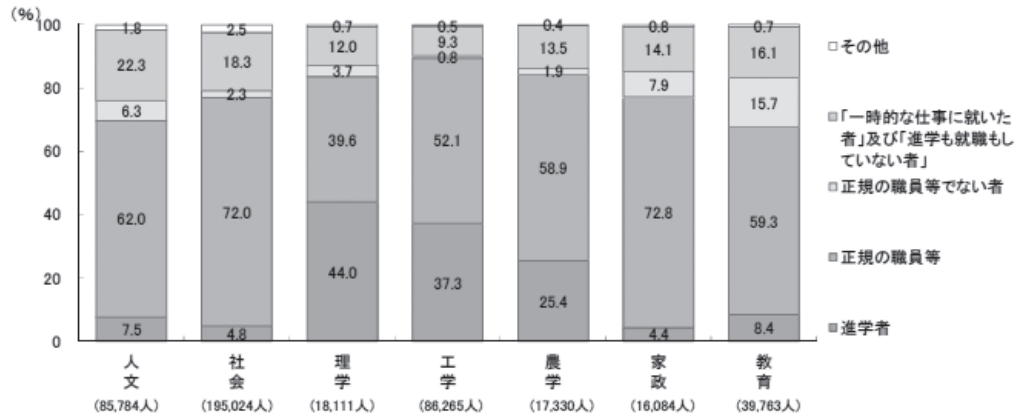
- ・社会科学系、人文科学系、教育系、家政系の学部では、「安定的な雇用に使っていない者」「正規の職員等でない者」、「一時的な仕事に使った者」及び「進学も就職もしていない者」の比率

が比較的高い。

- ・理学系、工学系、農学系では、大学院進学者の比率が高く、「安定的な雇用に就いていない者」の比率が比較的低い。

(参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成)

【大学（学部）卒業者の分野別の卒業者の状況】



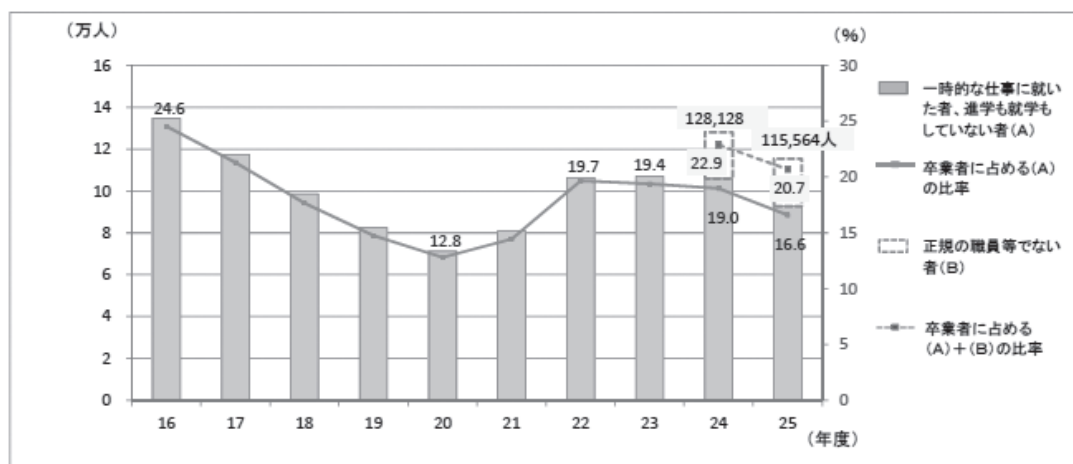
(資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月)

② 大学（学部）卒業時における「安定的な雇用に就いていない者」の問題

- ・卒業者のうち一時的な仕事に就いた者、進学も就職もしていない者は、2004年度が24.6%、2008年度が12.8%、2012年度が19.0%、2013年度が16.6%である。
- ・2013年3月卒では、卒業者のうち一時的な仕事に就いた者、進学も就職もしていない者に正規の職員等でない者を加えると、卒業者の20.7%が安定的な雇用に就いていない状況である。

(参考：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月を基に作成)

【一時的な仕事に就いた者、進学も就職もしていない者の推移】



(資料出所：文部科学省「平成25年度学校基本調査（速報値）」2013年8月)